野瀬 清 名誉教授が瑞宝中綬章を受章

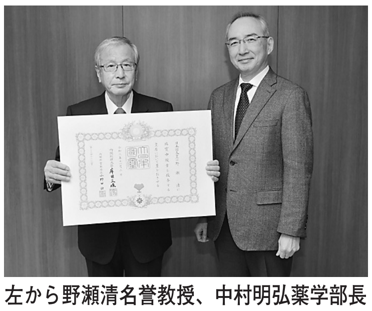
令和３年秋の叙勲受章者が11月３日に発表され、野瀬清名誉教授が瑞宝中綬章を受章した。

野瀬名誉教授は、平成４年５月に昭和大学薬学部微生物薬品化学講座（現：薬学部基礎薬学講座腫瘍細胞生物学部門）教授に就任し、平成15年４月から平成19年３月まで、本学薬学部長ならびに理事を務めた。この間、薬学部長として教育・研究施設の拡充をはじめ、学部運営に尽力されるとともに、教授として薬学の教育・研究に力を注ぎ、数多くの業績を挙げ、後進の育成にも貢献した功績が評価され、このたびの受章となった。

コロナ禍のために昨年同様、伝達式と皇居での拝謁が中止となり、11月24日、旗の台キャンパスにおいて、中村明弘薬学部長より勲章が伝達された。

【野瀬名誉教授のコメント】

思いがけずに今回叙勲を頂き、昭和大学において思う存分に教育・研究活動を行わせて頂いたお陰と感謝しています。退職したのはもう14年前になりますが、卒業生がそれぞれの分野で活躍しているのを拝見することが最大の楽しみです。昭和大学の益々の発展を祈念しています。



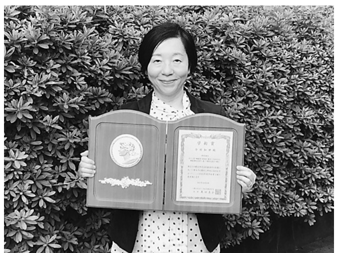
左から野瀬清名誉教授、中村明弘薬学部長

今村知世准教授が日本医療薬学会学術賞を受賞

今村知世准教授（先端がん治療研究所）が２０２１年度日本医療薬学会学術賞を受賞した。

日本医療薬学会は、医療薬学の進歩及び普及を図ることで我が国の学術文化の発展と国民の福祉の向上に寄与することを目的に、前身の日本病院薬学会として１９９０年に設立され、２００１年に現名称へと変更された。会員数は約１３，４００名で、その構成は病院・保険薬局の薬剤師、薬系大学教員・学生、製薬企業関係者等多岐にわたり、日本の医療薬学領域を代表する学会として位置づけられている。また同学会は、医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師等の認定制度を有しており、今村准教授は医療薬学専門薬剤師、医療薬学指導薬剤師、がん指導薬剤師を取得している。

同学会学術賞は、医療薬学分野において優れた研究業績を挙げ、医療薬学の発展に貢献している学会員を表彰するもので、今村准教授は研究主題「抗がん薬の曝露量と有効性／毒性との相関研究と曝露量規定因子に基づく個別化投与の確立」が高く評価され、同賞に選出された。



今村知世准教授

工藤進英センター長ら３名が日本医用画像工学会功績賞を受賞

工藤進英センター長（横浜市北部病院消化器センター）、森悠一講師（同）、三澤将史講師（同）が、第40回日本医用画像工学会大会にて日本医用画像工学会功績賞を受賞した。

日本医用画像工学会は、医用画像工学に関連する研究の連絡提携を図ることにより、学術の発展と人類の福祉に寄与することを目的として１９７８年に設立された。

工藤センター長らは、人工知能を用いた内視鏡診断支援システムの開発において医用画像工学に多大な貢献をしたとして、森健策教授（名古屋大学大学院情報学研究科）、須貝昌弘氏（サイバネットシステム株式会社）とともに、同賞に選出された。

左から森教授（名古屋大学）、工藤進英センター長、三澤将史講師、須貝氏（サイバネットシステム）

濵田和幸講師らの研究成果が『ANTICANCER RESEARCH』に掲載

濵田和幸講師（医学部内科学講座腫瘍内科学部門）、角田卓也教授（同）、吉村清教授（臨床薬理研究所臨床免疫腫瘍学部門）らは、非小細胞肺癌の患者さんに抗ＰＤ−１抗体療法を開始する21日前から開始後21日の間に抗生物質を投与すると全生存期間及び無増悪生存期間が統計学的に有意に短くなる研究結果を『ANTICANCER RESEARCH』10月号に発表した。同誌から10月号のIssue Highlightに選ばれホームページに掲載された。

濵田和幸講師

漢方・生薬研究会の横田萌さん、渡辺佳愛子さんに日本生薬学会から感謝状が贈呈

学生のクラブ活動である漢方・生薬研究会の横田萌さん（薬学部２年）、渡辺佳愛子さん（同）が、日本生薬学会第67回年会（ＷＥＢ開催）の市民公開講座「身近な薬草・漢方の役立つ知識〜コロナ禍の中、学生と漢方、生薬について考える〜」で『スパイスに使う生薬』をテーマに発表し、同学会から感謝状が贈呈された。

日本生薬学会は生薬・天然物や漢方に関する薬学系学会としては最も古く、規模の大きな学会の一つ。年会では毎回、市民講座として一般向けの講演会を行なっているが、今回は新企画として、６つの大学の薬学部から漢方系の研究会が集まり、一つのテーマで発表、議論する試みが行われた。その中で、横田さんと渡辺さんは昭和大学を代表して自ら考えたテーマで、一般の方にもわかりやすく、スパイス利用の実例などを含めて発表した。

左から川添和義教授（漢方・生薬研究会顧問）、渡辺佳愛子さん、横田萌さん、砂川正隆教授（同）

澁谷勲兼任講師と高見正道教授が学会賞を受賞

澁谷勲兼任講師（歯学部口腔生化学講座・帝京大学医学部准教授）と高見正道教授（歯学部歯科薬理学講座・薬理科学研究センター）が第29回硬組織再生生物学会学術大会・総会において、骨巨細胞腫の研究により最高位の学会賞を受賞した。

骨巨細胞腫は、腫瘍内部に発生した多核巨細胞が骨を吸収・破壊する疾患であり、日本での年間発症数は数百人程度と推定される。澁谷兼任講師と高見教授は、腫瘍細胞における原因遺伝子の変異や腫瘍内で産生されるタンパク質の種類を解析し、骨巨細胞腫の発生メカニズムを明らかにした。その成果が高く評価され同賞に選定された。

左から澁谷勲兼任講師、高見正道教授

医学堂書店
品川区
旗の台
電話（03）
3783−9774